

平成 24 年第 1 回定例会
総務地域連携常任委員会説明資料
目 次

◎議案補充説明

1 議案第 102 号

三重県の事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例案について・・・ 1

◎所管事項

- 1 「平成 24 年版成果レポート（案）【地域連携部抜粋版】」について・・・（別冊 1）
- 2 木曾岬干拓地へのメガソーラー事業の誘致について・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 第 22 回世界少年野球大会 三重・奈良・和歌山大会開催について・・・・・・・・ 5
- 4 競技力の向上について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 5 第 76 回国民体育大会の開催準備について・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 6 南部地域活性化に向けた取組状況について・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 7 熊野古道等を生かした地域活性化について・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- 8 審議会等の審議状況について（報告）・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

○ 別冊資料

（別冊 1） 平成 24 年版成果レポート（案）【地域連携部抜粋版】

（別冊 2） 国民体育大会（第 70 回大会以降用） 開催基準要項 開催基準要項細則

（別冊 3） 国民体育大会施設基準

（別冊 4） 新しい国民体育大会を求めて～国体改革 2003～

平成 24 年 6 月 18 日
地域連携部

議案第 102 号

三重県の事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例案について

○三重県の事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例案新旧対照表

改 正 案		現 行	
別表第二（第二条関係）		別表第二（第二条関係）	
一～二の五（略）	（略）	一～二の五（略）	（略）
二の六 削除		二の六 理容師法（昭和二十二年法律第二百三十四号）の施行のための規則に基づく申請書の受理及び承認書の交付に関する事務で別に規則で定めるもの	四日市市
二の七～四の十四（略）	（略）	二の七～四の十四（略）	（略）
		四の十五 美容師法（昭和三十三年法律第六十三号）の施行のための規則に基づく申請書の受理及び承認書の交付に関する事務で別に規則で定めるもの	四日市市
五～十八（略）	（略）	五～十八（略）	（略）
十八の二 景観法（平成十六年法律第百十号）に基づく景観計画区域内における行為に係る届出書の受理に関する事務で別に規則で定めるもの	各市町（四日市市、伊勢市、松阪市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、志摩市及び伊賀市を除く。）	十八の二 景観法（平成十六年法律第百十号）に基づく景観計画区域内における行為に係る届出書の受理に関する事務で別に規則で定めるもの	各市町（四日市市、伊勢市、松阪市、桑名市、鈴鹿市、亀山市及び伊賀市を除く。）
十八の三～三十六（略）	（略）	十八の三～三十六（略）	（略）

2 木曾岬干拓地へのメガソーラー事業の誘致について

1 経緯

地球環境問題への関心の高まりとともに、平成23年3月11日に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、自立分散型のエネルギー確保として新エネルギーへの取組が求められており、メガソーラー（1,000kW以上の発電出力を有する大規模太陽光発電）につきましても、7月にスタートする再生可能エネルギーの固定価格買取制度の導入を控えて、全国レベルで大きな展開が始まっているところです。

こうした中、広大な土地で日照条件にも恵まれている木曾岬干拓地の地域特性を生かして、新エネルギーへの取組に積極的に貢献するため、同干拓地でメガソーラー事業の誘致を行うこととし、この3月に策定した「三重県新エネルギービジョン」において「地域エネルギー創出プログラム」の1つとして、その取組を位置付けています。

干拓地内の誘致場所については、伊勢湾岸自動車道に隣接する南側の冒険広場、デイキャンプ場予定地である約63.6haとしています。

2 現状

木曾岬干拓地のメガソーラー事業については、県が県有地を事業者に貸し付け、事業者がメガソーラー施設の建設、運転、維持管理を行う事業スキームにより、電力を生み出すとともに、太陽光発電など新エネルギーに関する情報提供や普及啓発活動によって新エネルギーの導入促進につなげていくこととしています。

メガソーラー事業の誘致を進めるためには、東海農政局と締結した売買契約に係る土地利用計画の変更が必要であり、現在、それについて、隣接して干拓地を所有する愛知県とともに、東海農政局と協議を行っています。

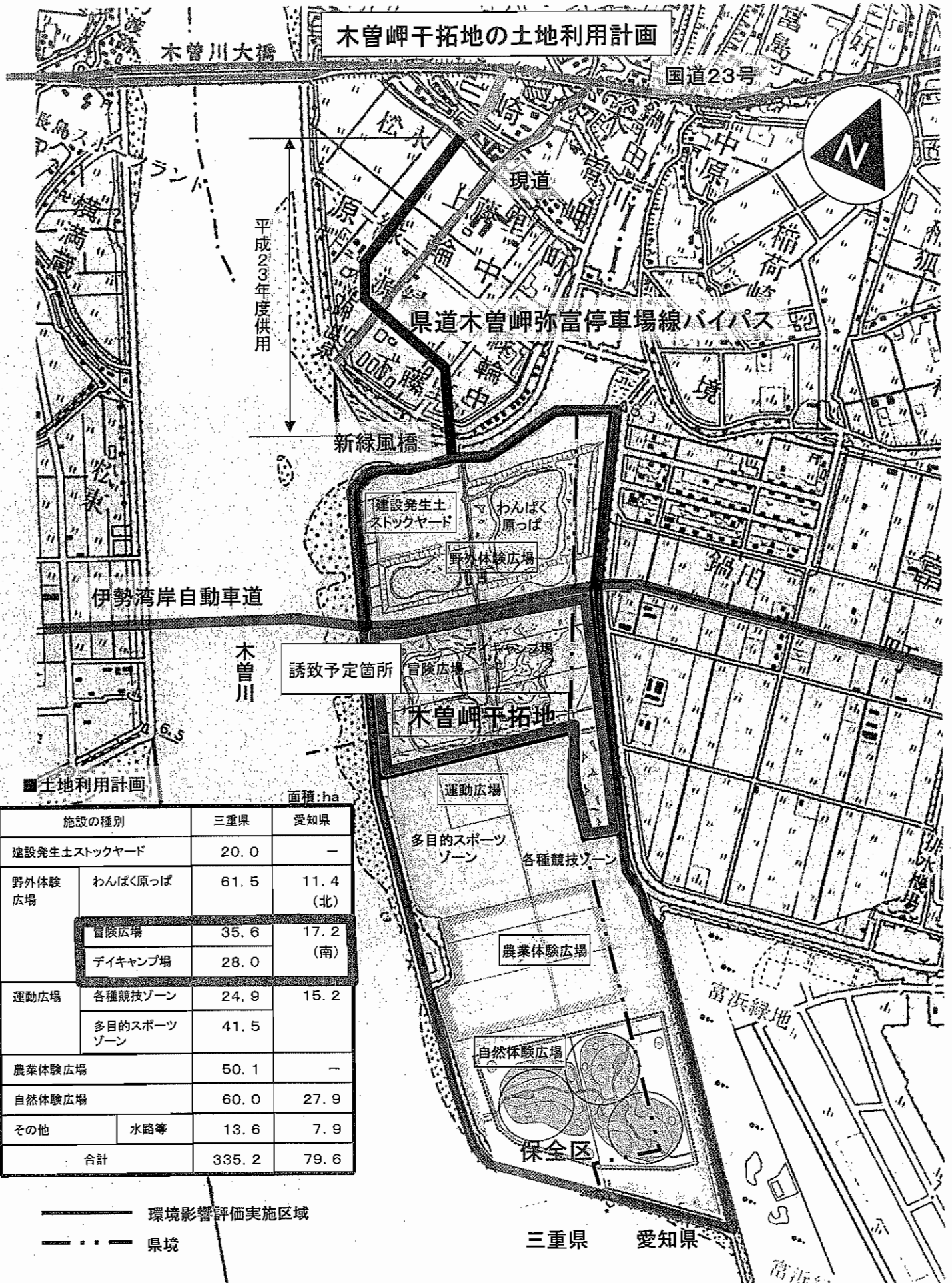
3 今後の対応

メガソーラー事業については、国の調達価格等算定委員会による1kWあたり42円という買取価格案が4月末に示されたことから、県としても早期に事業者決定をする必要があります。

東海農政局との協議終了後、夏頃には、事業者の公募を開始したいと考えており、東海農政局と精力的に協議を進めていきます。

また、地元市町である木曾岬町や桑名市とも連携を図りながら、取組を進めてまいります。

木曾岬干拓地の土地利用計画



■土地利用計画

施設の種別		面積:ha	
		三重県	愛知県
建設発生土ストックヤード		20.0	—
野外体験広場	わんぱく原っぱ	61.5	11.4 (北)
	冒険広場	35.6	17.2 (南)
	デイキャンプ場	28.0	
運動広場	各種競技ゾーン	24.9	15.2
	多目的スポーツゾーン	41.5	
農業体験広場		50.1	—
自然体験広場		60.0	27.9
その他	水路等	13.6	7.9
合計		335.2	79.6

—— 環境影響評価実施区域
 - - - 県境

三重県 愛知県

3 第22回世界少年野球大会 三重・奈良・和歌山大会開催について

1 大会趣旨

世界少年野球大会は、日米のホームランキング王貞治、ハंक・アーロンの両氏が、野球を正しく全世界に普及・発展させるとともに、世界の子どもたちの友情と親善の輪を広げようとの趣旨で、1990年に第1回大会をアメリカ・ロサンゼルス市で開催して以来、毎年夏に開催しています。

第22回目となる今大会は昨年9月に台風12号により、多くの命が失われ、甚大な被害をもたらされた、紀伊半島南部に位置する三重・奈良・和歌山の3県への大水害復興祈念を目的とし、三重県熊野市を主会場に世界13か国・地域から125名の少年少女が野球教室に参加するほか、韓国と中国から野球チームを招待し、日本の12チームと交流試合を行います。

世界の子どもたちが野球教室や交流試合、そして様々な交流行事を通じて言葉の壁や人種、国境を越えて友情の輪を広げ、国際親善に貢献し、被災された地域とそこに暮らす方々を勇気づける大会とします。

2 現状

現在、財団法人世界少年野球推進財団をはじめ、関係団体で組織する実行委員会で大会に向けて準備を進めています。特に、大会の主会場となる熊野市においては、独自に実行委員会を設置して準備を進めていただいています。

また、6月4日(月)には東京において、世界少年野球推進財団の王貞治理事長、3県知事、大会のスポンサー等に参加していただき、第22回世界少年野球大会 三重・奈良・和歌山大会の記者発表を行い、大会の開催に向けた広報を行いました。

3 特別企画「少年少女野球教室」

(1) 趣旨

本大会をPRするために、6月24日(日)に紀宝町が実施する「紀宝町復興イベント」にあわせて、6月23日(土)に30日前イベントの特別企画「少年少女野球教室」を紀宝町と連携して開催します。

- (2) 主催 第22回世界少年野球大会 三重・奈良・和歌山大会実行委員会
- (3) 期日 平成24年6月23日(土) 9時から13時
- (4) 会場 紀宝町立鶺殿運動場 (雨天時：紀宝町立鶺殿体育館)

- (5) 講師 水上善雄 (元ロッテオリオンズ内野手)
辻 発彦 (元西武ライオンズ内野手)
斉藤明夫 (元横浜ベイスターズ投手)
- (6) 対象 熊野市、御浜町、紀宝町、下北山村、新宮市の小学生(4～6年生)他
計 150 名
- (7) 内容 元プロ野球選手による、少年少女野球教室

4 今後の対応

(1) 大会の情報発信

ポスター・チラシを県内市町、県民センター、県営スポーツ施設に配布し、広報啓発グッズの作成を行い、大会を盛り上げるための情報発信に取り組みます。

(2) 取組体制

6月中旬より、スポーツ推進課職員2名を熊野市に派遣して、熊野市・御浜町・紀宝町をはじめ関係団体との緊密な連絡調整を図りながら、準備を進めます。

また、大会期間中は、スポーツ推進課だけではなく、地域連携部、南部地域活性化局、及び熊野、尾鷲県民センターの職員等も大会に関わり、大会の成功に向けて取り組みます。

(3) 健康管理

大会期間中は、地元の医療機関と連携を図り、熱中症等の傷病発生に対処する等の救急体制の確立に万全を期します。

第 2 2 回世界少年野球大会 三重・奈良・和歌山大会

交流試合一覧表

1 参加チーム

○海外チーム

中国チーム

韓国チーム

○地元チーム

【三重県】

オール熊野 A (熊野市)

オール熊野 B (熊野市)

A. M Yankees (御浜町)

紀宝選抜 (紀宝町)

【奈良県】

北山スーパーモンキーズ (下北山村)

大和子供会 (五條市)

十津川少年野球クラブ (十津川村)

川上ビッグボーイズ (川上村)

【和歌山県】

みさきストロングス (新宮市)

新宮パワーウェーブ (新宮市)

新宮選抜 A (新宮市)

蓬萊フレンズ (新宮市)

2 会場

7月24日、29日 くまのスタジアム (三重県)

7月25日、26日 下北山スポーツ公園 (奈良県)

7月27日、28日 くろしおスタジアム (和歌山県)

3 試合日程

【7月24日 (火)】

10:30~

開会式

12:15~13:45

A.M Yankees (三重県)

× 中国チーム

14:15~15:45

オール熊野 A (三重県)

× 韓国チーム

【7月25日 (水)】

13:00~

開始式

13:30~15:00

北山スーパーモンキーズ (奈良県)

× 韓国チーム

15:30~17:00

大和子供会 (奈良県)

× 中国チーム

【7月26日 (木)】

9:00~10:30

十津川少年野球クラブ (奈良県)

× 中国チーム

11:00~12:30

川上ビッグボーイズ (奈良県)

× 韓国チーム

【7月27日 (金)】

9:00~

開始式

9:30~11:00

みさきストロングス (和歌山県)

× 韓国チーム

11:30~13:00

新宮パワーウェーブ (和歌山県)

× 中国チーム

【7月28日 (土)】

9:00~10:30

新宮選抜 A (和歌山県)

× 中国チーム

11:00~12:30

蓬萊フレンズ (和歌山県)

× 韓国チーム

【7月29日 (日)】

8:45~10:15

紀宝選抜 (三重県)

× 韓国チーム

10:45~12:15

オール熊野 B (三重県)

× 中国チーム

13:30~14:30

閉会式

第22回世界少年野球大会 三重・奈良・和歌山大会
交流行事一覧表

【対象者：野球教室に参加する少年少女と地域の方々】

1 7月25日（水）13：30～16：00

- (1) 場所 熊野市新鹿町 新鹿海水浴場
- (2) 内容 新鹿海水浴場での水遊びやゲーム等の実施
- (3) 雨天時 熊野市紀和B&G海洋センターでのプール体験及び
体育館でのスポーツ体験
- (4) 協力 新鹿観光協会ほか

2 7月26日（木）13：30～16：30

- (1) 場所 紀宝町立相野谷小学校 体育館
- (2) 内容 オープニングで地元子ども太鼓の演奏
世界少年野球教室参加者（125名）で各種競技を実施
- (3) 雨天時 変更なし
- (4) 協力 紀宝町体育協会・スポーツ少年団・スポーツ推進委員 ほか

3 7月27日（金）13：30～16：30

- (1) 場所 御浜町 寺谷総合公園グラウンド
- (2) 内容 グラウンドゴルフ大会
- (3) 雨天時 ドッジボール大会（御浜町体育センター）
- (4) 協力 御浜町グラウンドゴルフ連盟

4 7月28日（土）13：30～16：00

- (1) 場所 熊野市金山町 熊野少年自然の家 ふれあい広場
- (2) 内容 伝統芸能の鑑賞や体験、出店や屋台での体験
- (3) 雨天時 熊野少年自然の家の屋内施設で実施
- (4) 協力 熊野少年自然の家、各種団体ほか

【対象者：交流試合に参加する少年少女と地域の方々】

1 7月26日(木) 13:30~16:00

(1) 場所 下北山村大字上池原地内 池郷川

(2) 内容 ①あゆ・あまごのつかみ取り~とった魚をその場で塩焼き~
②川遊び

(3) 雨天時 下北山中学校体育館で軽スポーツ

(4) 協力 地元関係者

2 7月27日(金) 13:30~16:00

(1) 場所 大地町 くじらの博物館

(2) 内容 イルカショー見学、イルカにタッチ体験

(3) 雨天時 くじら博物館内見学

(4) 協力 太地町立くじらの博物館

3 7月28日(土) 13:30~15:30

(1) 場所 新宮市 くろしおスタジアム屋内練習場

(2) 内容 ミニ運動会

(3) 雨天時 変更なし

(4) 協力 調整中

4 競技力の向上について

1 現状

本県では、国内外で活躍できるトップアスリートを育成し、競技力の向上を図るため、「みえのスポーツ強化推進委員会」を平成 23 年度から設置して、選手の強化、ジュニア選手の発掘・育成、指導者の養成などに取り組んでいます。特に学校への取組においては、教育委員会と情報共有を図るなど、連携して進めています。主な取組は以下のとおりです。

(1) みえスポーツアドバイザーの派遣(新規)

昨年度まで全国高等学校体育連盟テニス部長であり、日本テニス協会から優秀指導者表彰も受けた馬瀬隆彦氏(前四日市工業高校教諭)を「みえスポーツアドバイザー」として任用し、高校等へ派遣し、指導者への助言活動を行っています。(延べ 14 団体訪問: 5 月末現在)

(2) 高校運動部の強化指定による支援(新規) 【参考 1】

全国的な活躍が期待できる高校運動部を強化指定し、合宿や遠征などの強化活動を支援します。(5 月 22 日、6 校 8 部を強化指定)

(3) 中高指導者研修

中学、高校の運動部活動において実績のある指導者などを 30 名指定し、その資質向上を図るために、研修会を開催します。(年間 3 回実施予定、うち県外先進地研修を 1 回実施: 5 月 29 日第 1 回研修会開催)

(4) ジュニア選手の発掘・育成 【参考 2】

ジュニア選手を発掘するため、競技人口の少ない 3 競技(ウエイトリフティング、なぎなた、ヨット)において、平成 23 年度から体験会および練習会を実施しました。昨年度からの参加者に対して引き続き練習会での指導を継続するとともに、今年度も新たなジュニア選手を募集し、発掘に取り組めます。(平成 24 年 7 月～平成 25 年 1 月において実施予定)

(5) その他

上記の小中高校生への取組のほか、成年に対する競技力向上のための取組として、みえのスポーツ強化事業により国体選手の合宿、遠征等の強化活動や競技用具の整備など競技団体の取組を支援しています。

2 課題

これまでの取組により、全国大会における入賞数は年々増加し、平成 23 年の国体においても男女総合成績が一昨年に引き続き 32 位となりました。今後も引き続き、安定した競技力水準の確保とより一層の向上に取り組む必要があります。

また、平成 30 年に開催される全国高等学校総合体育大会や、平成 33 年に開催される国民体育大会を一定の目標年次としつつ、さらに国体開催以後も一定の成績が獲得できるよう、中・長期的な競技力向上に取り組んでいく必要があります。

さらに、5月30日に開催したスポーツ推進審議会においても、委員から競技力向上のための中長期的な方針を策定する必要があるとの指摘をいただきました。

3 今後の方針

今年度の取組としては、高校運動部強化指定をはじめ、みえスポーツアドバイザーの派遣、指導者研修などにより、高校生の競技力向上を図るとともに、国体選手強化事業などにより各競技団体の強化活動を支援することで、国体において、より上位の成績を目指していきます。

中長期の取組においては、三重県スポーツ推進審議会での意見も踏まえ、(財)三重県体育協会等の関係団体と連携しながら、平成 33 年第 76 回国民体育大会の開催に向けて、中・長期的な競技力向上対策の基本方針の策定に取り組み、今年度内にその最終案を取りまとめていきたいと考えています。

【参考】

1 高等学校運動部活動の強化指定

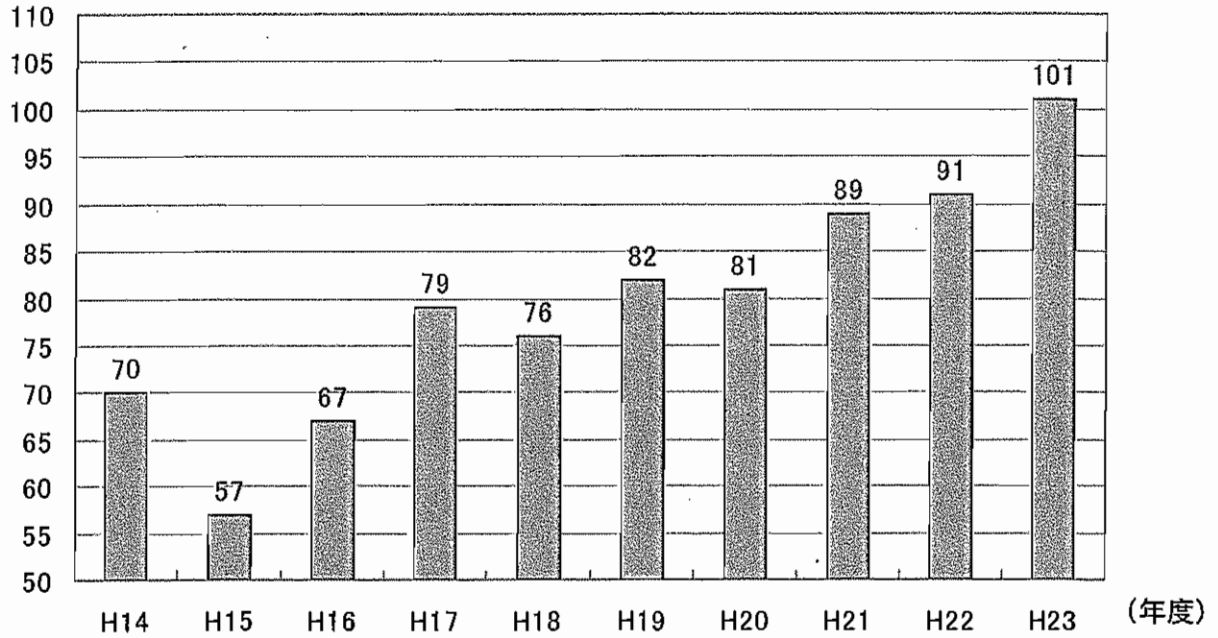
学 校 名	運 動 部 名
県立朝明高等学校	自転車競技部（男子）
県立四日市中央工業高等学校	サッカー部（男子）
	水球部（男子）
県立四日市工業高等学校	テニス部（男子）
三重高等学校	ソフトテニス部（男子）
	ソフトテニス部（女子）
県立宇治山田商業高等学校	陸上競技部（女子）
県立鳥羽高等学校	フェンシング部（男子）

2 ジュニア選手の発掘における参加者数（人）（H23 年度実績）

競技名	なぎなた	ウエイト リフティング	ヨット
体験会	20	26	8
育成プログラム	16	8	5
継続希望者	6	7	4

1 全国大会における入賞数

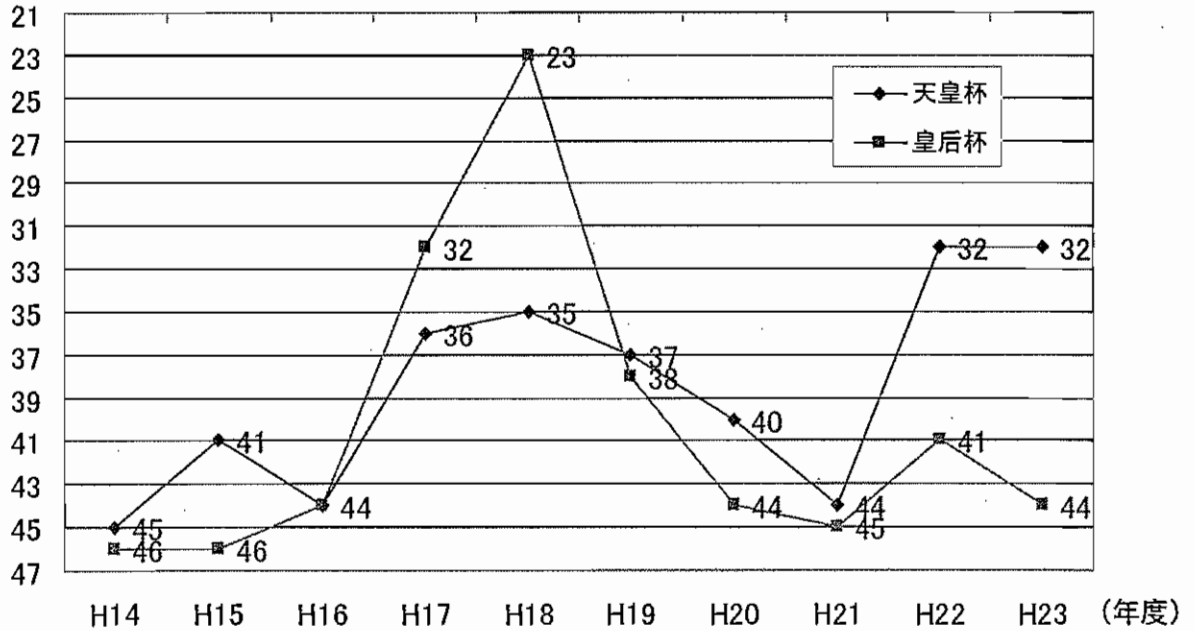
(件)



※国民体育大会、全国高等学校総合体育大会、全国中学校体育大会において、ベスト8以上に入った団体・個人の数 (国体準備課調べ)

2 国民体育大会における総合成績の推移

(位)



(国体準備課調べ)

天皇杯順位(男女総合成績)の推移

資料2

第62回秋田			第63回大分			第64回新潟			第65回千葉			第66回山口		
順位	県名	得点合計	順位	県名	得点合計	順位	県名	得点合計	順位	県名	得点合計	順位	県名	得点合計
1	秋田	2673.5	1	大分	2386.5	1	新潟	2426.0	1	千葉	2921.5	1	山口	2220.5
2	東京	2092.0	2	東京	1893.0	2	東京	1910.0	2	東京	2171.5	2	東京	2053.5
3	埼玉	1906.5	3	埼玉	1878.5	3	大阪	1767.0	3	神奈川	1795.0	3	愛知	1953.33
4	神奈川	1735.0	4	神奈川	1650.5	4	埼玉	1739.5	4	埼玉	1754.5	4	岐阜	1669.0
5	兵庫	1726.5	5	大阪	1647.5	5	神奈川	1643.0	5	大阪	1629.5	5	大阪	1633.0
6	大阪	1542.5	6	千葉	1569.0	6	千葉	1589.5	6	愛知	1578.5	6	神奈川	1628.83
7	愛知	1455.5	7	兵庫	1507.0	7	北海道	1550.5	7	京都	1443.0	7	千葉	1612.5
8	千葉	1436.0	8	愛知	1502.5	8	愛知	1530.3	8	兵庫	1442.0	8	埼玉	1546.5
9	京都	1416.5	9	北海道	1484.5	9	京都	1507.0	9	福岡	1437.0	9	広島	1460.5
10	北海道	1408.5	10	福岡	1452.5	10	兵庫	1324.5	10	北海道	1419.5	10	北海道	1392.5
11	大分	1300.5	11	京都	1435.5	11	広島	1248.5	11	岐阜	1302.5	11	兵庫	1341.5
12	福岡	1297.5	12	宮城	1230.5	12	岡山	1238.0	12	広島	1266.5	11	福岡	1341.5
13	宮城	1247.5	13	広島	1202.0	13	熊本	1210.0	13	山口	1230.5	13	京都	1299.5
14	熊本	1148.5	14	岡山	1195.0	14	大分	1209.0	14	岡山	1164.5	14	岡山	1272.0
15	静岡	1139.5	15	長野	1155.5	15	宮城	1201.5	15	長野	1138.5	15	長崎	1055.5
16	岡山	1113.0	16	茨城	1148.5	16	岐阜	1194.5	16	新潟	1097.0	16	山梨	1012.0
17	石川	1106.0	17	岐阜	1144.0	17	群馬	1175.5	17	静岡	1067.5	17	長野	983.5
18	広島	1093.0	18	新潟	1129.0	18	長野	1147.0	18	大分	1039.0	18	熊本	972.5
19	新潟	1074.0	19	静岡	1064.5	19	福岡	1136.0	19	宮城	1036.5	19	秋田	971.0
20	岐阜	1071.5	20	熊本	1038.5	20	長崎	1034.3	20	群馬	1014.0	20	宮城	962.5
21	群馬	1051.5	21	佐賀	1010.5	21	静岡	1029.0	21	熊本	995.5	21	群馬	961.0
22	栃木	1032.5	22	群馬	1009.0	22	石川	1020.5	22	石川	966.0	22	静岡	959.0
23	長野	1007.0	23	秋田	991.5	23	茨城	995.3	23	茨城	954.5	23	佐賀	957.5
24	福島	933.0	24	香川	989.5	24	香川	977.0	24	香川	947.0	24	大分	953.5
25	茨城	907.0	25	石川	975.0	25	鹿児島	932.0	25	富山	943.5	25	愛媛	939.5
26	滋賀	903.5	26	山梨	948.5	26	栃木	908.0	26	山梨	942.0	26	香川	925.0
27	富山	900.0	27	鹿児島	947.0	27	山形	898.5	27	栃木	929.0	27	栃木	920.0
28	奈良	896.0	28	青森	933.0	28	山口	890.5	28	秋田	881.5	28	宮崎	919.0
29	香川	884.5	29	栃木	910.5	29	佐賀	888.5	29	青森	880.0	29	青森	913.5
30	山梨	882.0	30	長崎	895.0	30	秋田	868.0	30	滋賀	866.0	30	福井	891.0
31	佐賀	872.5	31	福島	858.5	31	山梨	859.0	31	長崎	834.0	31	石川	877.0
32	青森	868.0	32	富山	824.5	32	福井	837.0	32	三重	816.5	32	三重	858.5
33	山形	853.5	33	奈良	823.5	33	奈良	833.0	33	岩手	812.5	33	新潟	843.5
34	岩手	827.5	34	福井	823.0	34	青森	803.5	34	福井	808.5	34	滋賀	825.0
35	長崎	819.5	35	山口	814.5	35	福島	788.0	35	奈良	793.5	35	奈良	815.5
36	宮崎	819.0	36	岩手	801.0	36	愛媛	777.0	36	山形	788.5	36	茨城	802.0
37	三重	795.0	37	宮崎	789.0	37	富山	773.0	37	和歌山	780.5	37	富山	798.83
38	福井	793.5	38	山形	779.5	38	滋賀	758.0	38	愛媛	770.5	38	鹿児島	777.5
39	山口	789.0	39	滋賀	770.5	39	岩手	744.5	39	鹿児島	769.5	39	沖縄	760.5
40	沖縄	771.5	40	三重	744.5	40	徳島	739.5	40	佐賀	767.5	40	福島	727.0
41	鹿児島	744.0	41	和歌山	739.0	41	沖縄	736.5	41	宮崎	729.5	41	岩手	715.0
42	愛媛	736.5	42	愛媛	705.0	42	島根	719.5	42	島根	724.0	42	山形	713.0
43	鳥取	731.5	43	徳島	689.0	43	和歌山	705.0	43	福島	715.5	43	和歌山	670.0
44	島根	683.5	44	沖縄	684.0	44	三重	691.0	44	徳島	655.0	44	鳥取	628.0
45	和歌山	641.5	45	島根	649.0	45	高知	663.5	45	沖縄	636.5	45	島根	579.5
46	高知	593.0	46	鳥取	626.0	46	宮崎	622.5	46	鳥取	629.5	46	高知	536.5
47	徳島	565.5	47	高知	581.5	47	鳥取	588.5	47	高知	511.0	47	徳島	525.0

5 第76回国民体育大会の開催準備について

1 現状

(1) 昭和50年「みえ国体」内定までの経緯について

本県では、昭和33年、当時の知事が国民体育大会の招致を表明しましたが、当時は、他県との競合が激しく、以後、昭和38、40、43年の各大会でも日本体育協会の内定を得られませんでした。

このため、県では、昭和42年に県や市町村、県体育協会等の関係団体からなる「第30回国民体育大会招致委員会」を設立し、県議会の決議をいたしながら、会場地市町村の選定など様々な招致活動に取り組んできました。

この結果、昭和44年に、ほぼ全競技の会場地を内定するとともに、県営体育館や陸上競技場の新設を進めるなどにより、昭和46年に昭和50年第30回大会の本県開催が内定されました。

(2) 「みえ国体」が果たした意義について

昭和50年に「たくましくあすをひらこう」をスローガンに「第30回みえ国体」を開催し、簡素・清潔な大会運営や本県選手団の活躍による大会の成功は、県民に自信と誇りを与えました。

とりわけ、スポーツの普及、競技者・指導者の育成、スポーツ施設の整備、スポーツ組織の充実など、スポーツ振興体制の確立とスポーツ文化の形成に総合的に寄与しました。

また、「国体関連道路整備計画」による関連道路の整備などにより、国体開催を契機として、その後の県勢発展のための社会基盤が整備されました。

(3) 今日の国民体育大会を取り巻く状況変化について

国体の開催が一巡し、平成の時代に入るとバブルの崩壊などにより、わが国の経済は長期にわたって停滞し、国や自治体の財政が緊縮化する中で、平成10年に国体開催予定7県から「国体の簡素・効率化に関する要望書」が出されました。これを受け、日本体育協会は、改革・改善を図る取組を進めることとしました。

平成15年、「新しい国民体育大会を求めて ～国体改革2003～」(以下「国体改革2003」という。)が策定され、各季別大会の見直しや大会規模の適正化等の10項目にわたる取組が示されたところです。

また、「国体改革2003」を受けて、「国民体育大会開催基準要項」及び「同細則」(以下、「開催基準要項等」という。)も改訂されました。この「開催基準要項等」では、「大会の競技施設は既存施設の活用に努める」ことなどが規定されています。

2 課題

こうした環境変化に伴い、岐阜、東京、長崎など直近の開催を控えた都県では、それぞれの基本方針の中で、各自固有の目標とともに、いずれも既存施設の活用を謳うなど簡素・効率化を心がけた実施目標も掲げています。

本県においても、県民の皆さんのご理解を得られる大会とするために、今の県の実態や身の丈に合った運営方法等について検討し、県民の皆さんの参画をいただけるものとしていく必要があります。

3 今後の方針

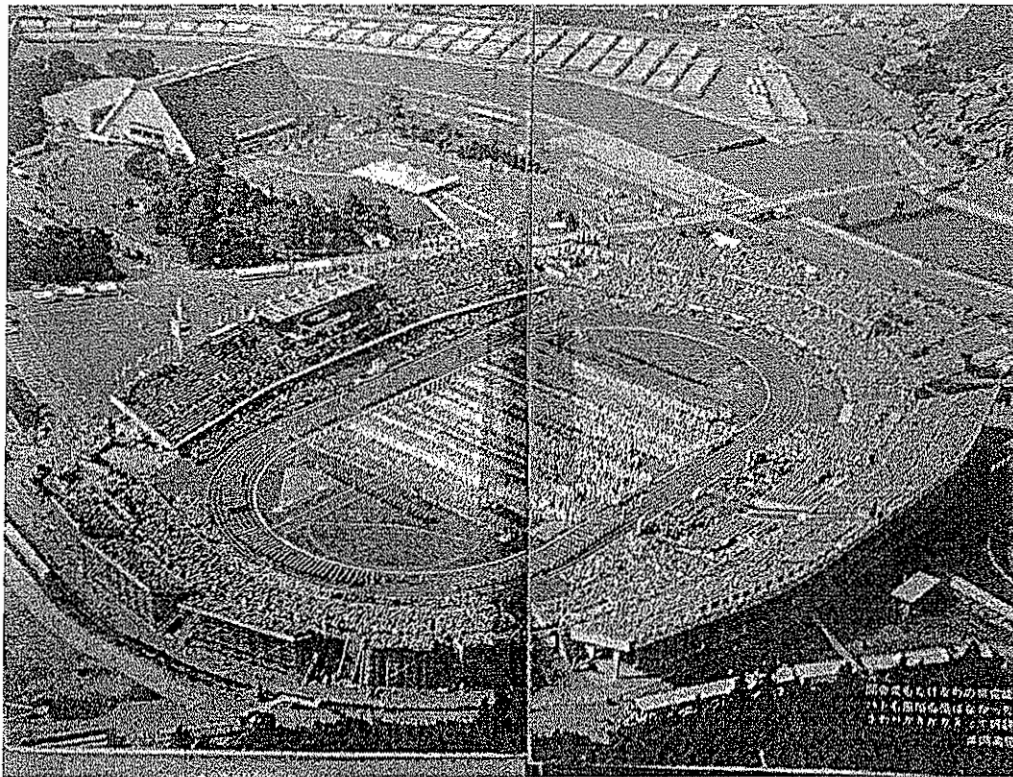
(1) 準備委員会の設立について

県内各界各層の代表者で構成し、大会開催の基本方針などを審議する「第76回国民体育大会三重県準備委員会」（仮称）を8月31日に設立し、開催準備に取り組みます。

(2) 開催基本方針の策定について

「第76回国民体育大会三重県準備委員会」（仮称）において、日本体育協会が策定した「国体改革2003」、「開催基準要項等」や開催予定県の「開催基本方針」等を参考にしながら、「開催基本方針」を策定します。

国民体育大会を取り巻く環境の変化について



	昭和50年開催 みえ国体の実績	平成24年 三重県及び先催県等の状況
1. 県の状況		
(1)人口	1,626,002人(国勢調査)	(三重県)1,840,532人(H24.4) (214,530人増)
(2)市町数	69市町	(三重県)29市町
2. 招致から開催まで		
(1)開催招致	奈良県、滋賀県と三県競願になる中 誘致活動により招致	昭和63年京都府開催より2巡目。 各県での持ち回り開催
(2)準備委員会	約800名(委員会最終年)	(三重県:予定)270名程度
(3)改善事項	<ul style="list-style-type: none"> 前夜祭の廃止 各県本部に対する陣中見舞い廃止 仮設物、競技用具のリース活用 特別招待者へのマンツーマン接伴、 一人1台配車の廃止 制服による女性コンパニオン廃止 	(日体協:国体改革2003) <ul style="list-style-type: none"> 夏季、秋季大会開催の一本化 参加総数15%削減(4,500人) 企業協賛制度の導入 (H20大分県)炬火リレーの廃止 (H22千葉県)行進人数制限
(4)募金・協賛金	実績:4億1,000千万円	(H22千葉)1億3,247千万円 (H23山口)5億9,590千万円
3. 開催状況		
(1)期間	水泳の夏季大会は8月、陸上競技な どの秋季大会は10月に開催	((公財)日本体育協会)(日体協) 本大会として9月中旬から10月中旬 の11日間で開催

(2) 競技数、種別	正式競技：31（冬季2競技含む） 公開競技：1 （種別） 成年男子・女子、少年男子・女子 （当時は、陸上、サッカー、バレー、 剣道等で教員の部を実施）	（日体協） 正式競技：40（冬季3競技含む） 特別競技：1（高校野球） 公開競技：4競技から選択 デモンストレーションスポーツ ：県民が対象の競技
(3) 全国からの選手・監督数	24,852人	（H22千葉）40,172人 （H23山口）34,201人 ※デモンストレーションスポーツを含む
(4) 観覧者も含めた参加者数	（秋季大会：開会式） 31,423人	（H21新潟：総合開会式）40,126人 （参考）直近開催県の観覧者等を含む参加状況 （H22千葉）690,131人 （H23山口）676,689人
(5) 競技施設等	開閉会式 （秋季）県営陸上競技場 ＜天皇・皇后両陛下御臨席＞ （夏季）四日市市水泳競技場 ＜皇太子・同妃両殿下御臨席＞ ・13市5町2村62会場のうち、新設21件、改補修14件	（日体協）※国民体育大会開催基準要項細則 大会の競技施設は既存施設の活用に努め、施設の新設・改修等にあたっては、大会開催後の地域スポーツ振興への有効的な活用を考慮し、必要最小限にとどめるものとする。
(6) 県民意識の醸成	・253の組織、団体による県民運動推進協議会設置 ・12,415名へ県民運動推進員を委嘱 ・各種県民運動展開※1・民泊実施 ・県民音頭による意識の高揚	（岐阜県の例） ・受付、案内、会場美化など県民によるボランティア ・幼稚園などでのミナモダンス演舞、ミナモソングの合唱
(7) 全国障害者スポーツ大会※2	未実施	（厚労省） 平成13年から国体開催後に開催することが規程され、各先催県で実施されている。

※1 主な県民運動：○スポーツを楽しむ運動（広報、懸垂幕等）、○健康を高める運動（講演、体力測定等）、○青少年を健全に育てる運動（パトロール等）、○花づくりと緑化を進める運動（植樹等）、○笑顔と親切で接する運動（ワッペン配布、あいさつ先手運動等）、○善意と助け合い運動（街頭献血、共同募金等） など

※2 全国障害者スポーツ大会

主 催：厚生労働省、（公財）日本障害者スポーツ協会、開催地主催者

実施競技：陸上競技、水泳、卓球、サウンドテーブルテニス、アーチェリー、フライングディスク、ボウリング、車椅子バスケットボール、知的障害者バスケットボール、グランドソフトボール、聴覚障害者バレーボール、知的障害者バレーボール、精神障害者バレーボール、サッカー、ソフトボール、フットベースボール

国民体育大会のあゆみ

資料2

回数	開催年	開催地	特 色
1	昭和21年	京阪神地方	全国から5,377人の選手が食料持参で参加。スポーツ振興とともに新しい日本の建設に寄与すべく第1歩を踏み出した。
2	昭和22年	石川県	火焰の国体マークが制定され、これを描いた大会旗が掲揚された。また、国体歌「若い力」が高らかに歌われた。この年から記念切手が発行された。
3	昭和23年	福岡県	都道府県対抗の形が確立され、参加人数は20,000人に及び名実ともに国体にふさわしいものになった。天皇杯、皇后杯が創設された。
4	昭和24年	東京都	神宮外苑ラグビー場で夜の開会式。初めて天皇陛下からお言葉を賜る。また、この年は主催者に東京都が特別に加わる。
5	昭和25年	愛知県	炬火が初めて点火され、日本復興の意気を示すように燃え盛り、国体はいよいよ隆盛の兆しを見せた。また、この年から文部省が主催者に加わる。
6	昭和26年	広島県	原爆の傷跡が刻み込まれた地に集まった若者たちは、等しく平和への願いを新たにした。開会式に集団演技が登場し、都道府県旗が掲揚された。
7	昭和27年	福島県 宮城県 山形県	東北3県で開催されたにもかかわらず、大会運営全般を円滑に推進し、人間味あふれる歓迎に接した。祖国復帰の願いを込めて沖縄県が初参加。
8	昭和28年	愛媛県 香川県 徳島県 高知県	全国の地方財政の窮乏のなか「四国は一つ」を合言葉に開催。文化の向上と明朗なる社会の建設等に多大な貢献をした。
9	昭和29年	北海道	地域性を考慮した8月下旬に開催。残暑厳しい中で力いっぱい競技を繰り広げた。第10回大会以降の「国民体育大会開催基準要項」を制定。
10	昭和30年	神奈川県	国体10年目を迎え、底辺の広い国体を目標として、県民運動を展開し、県民総参加の体制を確立。これ以降開催県が主催者に加わる。
11	昭和31年	兵庫県	国体開催が地方財政を圧迫するとの閣議決定がなされた。そのため、この大会は、地方持ち回りの一つのモデルとして注目を集めた。
12	昭和32年	静岡県	初めて炬火リレーが行われ、地元住民の国体参加の意識が高まった。東京都以外では開催県が初めて天皇杯を獲得した。
13	昭和33年	富山県	民泊で真心こもった親切な歓迎ぶりは、選手・役員に深い感銘を与えた。既存施設がフル活用される。秋季大会にブラジル残留邦人が初参加。
14	昭和34年	東京都	伊勢湾台風の被害で三重・愛知・岐阜は出場辞退。オリンピック東京大会の開催が決定され、国民のスポーツ熱が一層高まった。
15	昭和35年	熊本県	オリンピック東京大会を目指し、選手強化が強く叫ばれた年であり、開催地熊本は男女総合で2位を獲得した。国体の開催が都道府県持ち回りとなる。
16	昭和36年	秋田県	スローガン「明るい国体」の県民運動は、大きな成果を挙げた。宿泊は民泊を中心とし、素朴のうちにも真心のこもった親切は好印象を与えた。大会スローガンが初めて登場。

回数	開催年	開催地	特 色
17	昭和37年	岡山県	「歴史をつくる岡山国体」をスローガンに、施設の整備は10年の歳月をかけて行い、岡山県の真価を発揮した立派なものとなった。沖縄県が正式参加。
18	昭和38年	山口県	「友情・奉仕・躍進」をスローガンに、伝統に輝く県民性を発揮。県民運動が県下に普及し、美しい花に囲まれさわやかな印象を与えた。
19	昭和39年	新潟県	東京都以外で初めて天皇杯・皇后杯を独占。オリンピック東京大会の関係で6月に春季大会として開催。新潟地震で夏季大会中止。
20	昭和40年	岐阜県	「明日の力を育てる国体」とした大会テーマが初登場。国体も20年の成人に。オリンピック方式の良さを取り入れ、その華麗さは国体史上まれにみるものであった。
21	昭和41年	大分県	「剛健・友愛・信義」をスローガンに掲げ、あらゆる面に剛健さが出た名実ともに「剛健国体」。大会会長トロフィーが制定された。
22	昭和42年	埼玉県	「精神・健康・協力」をテーマとし、天皇杯・皇后杯の獲得、県民意識の高揚など、数々の成果を挙げた。また、国体史上初の選手村を開設し好評を博した。
23	昭和43年	福井県	明治百年記念「親切国体」を愛称とし、75万福井県民総力結集の成果は、男・女総合成績上位という輝かしい実を結び注目を集めた。
24	昭和44年	長崎県	「創造国体」をテーマとし、「鳩が世界にはばたく躍進の姿」をシンボルマークに、雄飛する国際県長崎の意気を示した。
25	昭和45年	岩手県	「誠実・明朗・躍進」のスローガンを地で行く誠実さと真心は、みちのくの「素朴な人情」として好評を博した。
26	昭和46年	和歌山県	花いっぱい「黒潮国体」。開会式・県民運動・民泊等、創意と工夫により参加者から好評を博した。
27	昭和47年	鹿児島県	「太陽国体」。沖縄が本土復帰し、初めて県旗を掲げて入場。大会旗リレーはこの大会で中止。
28	昭和48年	沖縄県	祖国復帰の感激と発展の願いを込めた「若夏国体」。「強く・明るく・楽しく」をスローガンに開催。21競技の熱戦が展開された。
		千葉県	首都圏で話題になった「若潮国体」。質素着実な「ふだん着国体」を目標に船舶の宿泊利用、選手村の開設等の新しい試み。国体旗を制定。
29	昭和49年	茨城県	テーマを「水と緑のまごころ国体」と名付け広大な自然の中での開・閉会式は「史上空前で絶後」の華麗さを誇る。
30	昭和50年	三重県	「たくましくあすをひらこう」をテーマとし30回の節目と経済不況の中で、創意工夫により国体の原点を目指した。年齢別競技を採用。大会マスコットが初めて登場（県の動物 かもしか）。
31	昭和51年	佐賀県	テーマを「若橘国体」、スローガンに「さわやかに・すこやかに・おおらかに」を掲げ、地方色豊かな国体像を描く。秋季大会参加人数を縮小。
32	昭和52年	青森県	テーマを「あすなる国体」、スローガンに「心ゆたかに力たくましく」を掲げ、冬・夏・秋の全季を通じて同一県で行われた史上初の完全国体。

回数	開催年	開催地	特 色
33	昭和53年	長野県	「やまびこ国体」のテーマのもとで冬・夏・秋の全季を開催し、天皇杯・皇后杯を独占した。未登録競技者にも国体参加の道を開いた。
34	昭和54年	宮崎県	国体の原点を求めた県民総参加の手づくり国体で心のふれあいを広める。台風の来襲で、閉会式が史上初めて屋内体育館で行われた。
35	昭和55年	栃木県	テーマを「栃の葉国体」とし、県民総参加の創意工夫を生かした手づくりによる個性豊かな国体。スローガンは「のびる力、むすぶ心、ひらくあした」
36	昭和56年	滋賀県	「びわこ国体」をテーマに開催。湖上輸送等の創意工夫により質素な中にも内容豊かな実りある国体として好評を博した。
37	昭和57年	島根県	「このふれあいが未来をひらく」をスローガンとした「くにびき国体」は簡素な中にも心温まる国体でふれあいの輪が全国に広がる。
38	昭和58年	群馬県	健康で文化の香り高い国体を目指した「あかぎ国体」は輝かしい未来に向け、より一層の飛躍を念願した。マスコットが初めて登場。
39	昭和59年	奈良県	県民総参加の民泊体制による「わかき国体」は競技の観客数が史上最高で、人情味あふれるふれあいの輪が広がった。
40	昭和60年	鳥取県	質素な中にも真心のこもった国体を目指した「わかとり国体」は、県内各地で真心のこもったふれあいの輪が広がった。
41	昭和61年	山梨県	「かいじ国体」。史上初めて競技記録収集速報業務の電算化を図るなど、先端技術を導入した「ニューメディア国体」。
42	昭和62年	沖縄県	全国一巡を締めくくる「海邦国体」。復帰15周年を記念する大会として「1人1役万人が主役」を合言葉に県民総参加のもとに開催。
43	昭和63年	京都府	2巡目初回大会「京都国体」。青年2部制の導入、中学生の参加を認めたデモンストレーションとしてのスポーツ行事の実施など、2巡目国体として様々な改革が行われ、国体のあり方を見つめ直す大会となった。
44	平成元年	北海道	「はまなす国体」。完全国体。キャプテンシステムを活用するなど情報化時代にふさわしい大会となった。
45	平成2年	福岡県	「とびうめ国体」。今大会から外国籍大学生の参加が認められ、水泳競技の種目にシンクロナイズドスイミングが加わった。初めて山岳競技で人工登はん会場を使用。
46	平成3年	石川県	「石川国体」。国体史上初の県内全市町村において競技会を開催。今大会から柔道種目に女子が加入、青年2部制種目のうちライフル射撃（CP）が最初に廃止。初めて市街地でカーヌー競技（スラローム・ワイルドウォーター）を実施。
47	平成4年	山形県	「べにばな国体」。国体史上5番目の完全国体、県内全市町村が会場となった。県民総参加による身近で、より開かれた国体として開催。
48	平成5年	徳島県 香川県	「出会い 競い そして未来へ」をスローガンに共同開催した東四国国体は、県や行政の枠を越えたボーダレスな時代にふさわしい大会となった。

回数	開催年	開催地	特 色
49	平成6年	愛知県	「わかしやち国体」。 「いい汗キャッチ!いきいき愛知」をスローガンに開催。交流新時代を迎え、今後の魅力ある地域づくりを進める上で大きなステップとなった。
50	平成7年	福島県	「友よ ほんとうの空に とべ!」をスローガンに開催した完全国体。初めて3季4大会のすべてに集団演技を実施し、大々的に式典を盛り上げ各季大会を合わせ史上最大の参加者を数える大会となった。
51	平成8年	広島県	戦後50年が経過し「いのちいっぱい 咲きさい!」をスローガンに平和の尊さをアピールする大会として開催。広島らしいもてなしは、友情と連帯の輪を広げ、ホスピタリティーあふれる大会となった。
52	平成9年	大阪府	「なみはや国体」。 「おおさか ふれ愛 夢づくり」をスローガンに全市町村で開催。外国籍社会人の初参加や環境にやさしい取組みをはじめ、38年ぶりの薄暮型開会式、衛星放送による街角放映などに取り組んだ。また、広範なデモンストレーションとしてのスポーツ行事の実施など生涯スポーツ社会づくりへの契機となる大会となった。
53	平成10年	神奈川県	「かながわ・ゆめ国体」。 「おお汗 こ汗」をスローガンに全市町村で開催。簡素で効率的な大会運営に取り組む。全国身体障害者スポーツ大会との協調をめざし、実行委員会の一元化や炬火リレーの共同実施などが行われた。スポーツボランティアのほか、公募制を中心とした式典アトラクションや式典音楽へ県民が参加。
54	平成11年	熊本県	「くまもと未来国体」。 「人、光る。」をスローガンに開催。秋季大会開会式における選手団のスタンド参加や新記録システムによる情報提供など運営の効率化を進めた。
55	平成12年	富山県	「2000年とやま国体」。 「あいの風 夢のせて」をスローガンに冬季(スキー・バイアスロン)、夏季および秋季の各大会を全市町村で開催。インターネットによる情報提供など最新のITを駆使。オフィシャルサポーター(公式協賛企業)制度の創設や全国障害者スポーツ大会の実行委員会事務局組織との一元化など、大会の簡素・効率化の創意と工夫を凝らした。
56	平成13年	宮城県	「新世紀・みやぎ国体」。 「いいね!その汗、その顔」をスローガンに開催。「新世紀・みやぎ国体の花」を育て、花いっぱい運動を各地で展開。各種懇談会、記念品・土産品の廃止や企業協賛金の積極的な受入れなどの簡素・効率化により、国体運営経費の大幅な削減を図った。
57	平成14年	高知県	「よさこい高知国体」。 「いしん前進」をスローガンに四国初の単独開催。秋季大会における宿泊施設の大幅不足から、5競技を夏季大会へ移行、国体初の陸上競技会の先行開催や秋季大会閉会式を屋内で開催。宿泊は2隻のホテルシップや9千人近い選手・監督の民泊等で対応。過剰な競技力強化を廃した結果、39年ぶりに開催県以外が天皇杯を獲得。「身の丈にあった国体」と評された。
58	平成15年	静岡県	「NEW!!わかふじ国体」をテーマに、「“がんばる”が好き」のスローガンのもと県内全市町村で開催。国体初のドーピング検査や15年ぶりに復活したハーフマラソンを実施。「しずおか」らしさの実現への取組みや「簡素・効率化」を目指した。

回数	開催年	開催地	特 色
59	平成16年	埼玉県	「彩の国まごころ国体」。「とどけ この夢 この歓声」のスローガンのもと、「日本一簡素で心のこもった国体」を大会理念に開催。初めて会期の前日に夏季大会開会式を文化ホールで開催。秋季大会開会式当日に新潟県中越地震が発生した。
60	平成17年	岡山県	「晴れの国おかやま国体」。「あなたがキラリ☆」のスローガンのもと、「195万人のスクラム」を目標に、おもてなしの機運が盛り上がり、好評を博した。参加人員削減一部先行実施。秋季大会開会式の選手参集者数を従来の半数に削減し、スピーディーに展開した。
61	平成18年	兵庫県	「のじぎく兵庫国体」。「“ありがとう”心から・ひょうごから」をスローガンに、国体史上初の夏・秋季大会開催一本化を導入。全競技のインターネットによる映像配信、全競技会場等へのAEDの配備など、新しい国体のスタートを切る大会となる。
62	平成19年	秋田県	「秋田わか杉国体」。「君のハートよ位置につけ」をスローガンに、旬の食材を使った郷土料理など「食文化」の発信にも取り組み、好評を博した。
63	平成20年	大分県	「チャレンジ!おおい国体」。「ここから未来へ 新たな一歩」をスローガンに、「大会運営の簡素・効率化」と「大会の充実・活性化」を柱とする「国体改革2003」を完全実施する初めての大会となる。
64	平成21年	新潟県	「トキめき新潟国体」。「トキはなて 君の力を 大空へ」をスローガン、「伝えよう 感謝の気持ちを トキめきを」を合言葉に、災害から復興した新潟県を発信する大会となった。開会式の入場行進人数を各都道府県32名とし、式典時間の短縮や選手の負担軽減を実現した。
65	平成22年	千葉県	テーマ： 「ゆめ半島千葉国体」 スローガン： 「今 房総の風となり この一瞬に輝きを」
66	平成23年	山口県	テーマ： 「おいでませ!山口国体」 スローガン： 「君の一生けんめいに会いたい」
67	平成24年	岐阜県	テーマ： 「ぎふ清流国体」 スローガン： 「輝け はばたけ だれもが主役」
68	平成25年	東京都	テーマ： 「スポーツ祭東京2013」 スローガン： 「東京に 多摩に 島々に 羽ばたけアスリート」
69	平成26年	長崎県	テーマ： 「長崎がんばらんば国体」 スローガン： 「君の夢 はばたけ今 ながさきから」
70	平成27年	和歌山県	テーマ： 「紀の国わかやま国体」 スローガン： 「躍動と歓喜、そして絆」
71	平成28年	岩手県	テーマ： 未定 スローガン： 未定
72	平成29年	愛媛県	テーマ： 未定 スローガン： 未定
73	平成30年	福井県	

【参考文献】

- 「国民体育大会50年のあゆみ」 財団法人日本体育協会
- 「国民体育大会報告書」 国民体育大会終了各都道府県

(出典)福井県資料

6 南部地域活性化に向けた取組状況について

1 現状と課題

県南部地域では、豊かな自然やその恵み、自然と共生してきた地域の文化など、多くの資源や魅力が存在する一方で、基幹産業である第一次産業の衰退や若者の流出などによる生産年齢人口の減少、過疎化、高齢化が進行しています。また、東紀州地域では、紀伊半島大水害からの早期の復興が求められています。

このため、「みえ県民カビジョン行動計画」において「南部地域活性化プログラム」を位置づけるとともに、その推進組織として南部地域活性化局を設置し、南部地域における諸課題の解決や活性化に取り組むこととしました。

「南部地域活性化プログラム」においては、「若者の働く場が確保され、安心して住み続けることのできる地域社会の形成」をめざし、地域の実情に応じて、市町と連携した課題の解決や活性化に向けた取組を進めることとしています。

2 取組状況について

(1) 若者の働く場の確保、定住の促進について

① 三重県南部地域活性化基金の活用等

市町が連携して行う若者の働く場の確保、定住を促進する取組等を支援するため、各市町の課題のマッチングに努めるとともに、「三重県南部地域活性化基金」を活用して早期事業化を図ります。

現在、南部地域の13市町・大学・県で構成する「南部地域活性化推進協議会」において、市町の合意のもと、基礎資料の一つとして人口転出入にかかる要因のアンケート調査を実施しています。また、事業化に向けた可能性を検討するため、「集落支援・空き家活用」「移住・交流」「観光・交流」「起業支援」といったテーマごとの部会を設置しました。

ア 「集落支援・空き家活用部会」

大台町における集落支援の取組、各市町の空き家活用の取組等について情報を共有しました。今後は、課題の抽出を行うとともに、空き家活用に向けた協議を進めていきます。

イ 「移住・交流部会」

各市町の定住に向けた取組の情報を共有するとともに、「移住フェア」について協議を進めています。

ウ 「観光・交流部会」および「起業支援部会」

個別に市町を訪問し、課題の抽出、連携方法など、具体的な取組イメージについて協議しています。

現時点において、具体的な事業化に向け、漁業、農業等の第一次産業の担い手確保と空き家を活用した住居の確保等を連携させた取組について、市町等と協議を重ねています。

なお、市町との個別協議の中では、事業化の可能性のあるものとして、インターンシップ事業、獣肉の利活用の取組などが提案されています。

② 南部地域への移住を促進する情報発信

県と市町が連携して南部地域の暮らし・魅力を都市部等に向けて発信し、この地域に住みたい・暮らしたいというファンづくりを進め、移住を促進するため、東京、大阪、名古屋の三大都市圏において秋以降に開催する「移住フェア」に向け準備を進めています。

③ 集落支援のモデル的な取組

平成 24 年度は、市町の取組意向も踏まえ、尾鷲市早田地域および近隣集落と志摩市渡鹿野島で先行して取組を進めていくこととしており、区長等の地域のキーパーソンとの協議を重ねています。この 2 地域での取組にあたっては、三重大学や四日市大学等の県内高等教育機関や県外の大学等と連携をしながら、進めていきます。その他の市町では、南伊勢町、紀北町、御浜町で集落の選定に向けた検討を進めています。

④ 雇用の創出

南部地域では働く場の確保が大きな課題であることから、地域資源を活用した事業展開を進めようとする企業等 8 事業者と委託契約を締結し、11 名の雇用の創出を図ることとしました。

(2) 総合的・横断的な事業推進について

南部地域の活性化に向けた課題は、多岐の分野にわたることから、関係部局とともに、市町と連携して、「総合的・横断的な事業推進」をすることとしています。

このため、知事を本部長とする部局横断組織「南部地域活性化推進本部」を設置し、そこでの協議等を通じて、南部地域の活性化に向けた課題を共有するとともに、市町の課題に対応する各部局の所管事業や「三重県南部地域活性化基金」を有効に活用できるよう、調整を図っていきます。

以上のような取組を通じ、南部地域活性化局が総合調整機能を果たせるよう努めていきます。

7 熊野古道等を生かした地域活性化について

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」は、日本で初めて遺産全体が文化的景観として登録されたものであり、東紀州地域における地域活性化の核となる資源です。

この熊野古道の保全と活用については、「価値に気づく」「守り伝える」「伊勢路を結ぶ」を目標に、熊野古道の魅力の発信や講座の開催、ウォーキングなどのイベント実施、古道客の受入態勢の整備等の取組を進めています。

さらに、集客交流を促進し、地域の活性化につなげるため、熊野古道を含め多様な地域の魅力の発掘、発信や地域産品の開発などにも取り組んでいます。

今年度の主な取組

(1) 熊野古道の保全と活用

① 熊野古道の歴史的、文化的価値に気づくための活動

熊野古道の価値や魅力を地域の人びとが自ら紹介する「熊野古道まちなか案内所」の設置に取り組んでいます。これまで8箇所設置し、新たに3箇所の設置を行います。

また、熊野古道センターでは、「熊野の食文化」など魅力ある企画展を開催します。

② 熊野古道の歴史的、文化的価値を後世に守り伝えていく活動

次世代を担う子どもたちに熊野古道の価値を伝えていくため、熊野古道を育み守ってきた自然、暮らしなどをまとめたテーマ別冊子を作成し、地元の小中学校等で地域学習の資料として活用いただいています。これまで4種類作成し、新たに「熊野古道の神話」を作成する予定です。

併せて、熊野古道センターでは、世界遺産、熊野古道などについての出前授業を、地域内の小学校で実施します。

さらに、東紀州観光まちづくり公社では、みえ熊野学の研究成果を生かし、地域内における巡回講座や三大都市圏における文化講座を開催します。

また、熊野古道語り部友の会が行う英語ガイド研修や語り部養成講座への支援を行うとともに、熊野古道保存会の活動に対しても、作業用資材購入等の支援を継続します。

③ 伊勢路を結ぶための活動

地域の魅力である歴史や伝承など多様なテーマごとにウォーキングのモデルコースを提案し、ウォーキングイベントを実施することで、古道客のリピートにつなげます。また、来訪者の利便性を向上するため、レンタカー会社と連携した割引サービスや地元代行運転事業者と連携した自動車回送サービスを実施するとともに、熊野古道へ誘導するサインの整備を行います。

さらに、伊勢から熊野への誘客を促進するため、三大都市圏へのエージェントセールスを行い、ツアー造成につなげます。

また、今年度は、伊勢から熊野への流れを創り出すため、「熊野古道伊勢路 霊場巡礼めぐり」に取り組み、神社仏閣の洗い出し、巡礼コースの設定や巡礼ストーリー創りなどを行います。

こうした取組を着実に実施するとともに、来年以降の高速道路の概成、伊勢神宮の式年遷宮や熊野古道世界遺産登録10周年などを大きなチャンスとらえ、関係市町などと実行委員会を設置し、世界遺産登録10周年記念イベントなどの検討を進めます。

(2) 紀伊半島大水害からの復興取組

紀伊半島大水害後には来訪者数が落ち込みましたが、東紀州観光まちづくり公社による情報発信やイベント実施、熊野古道センターにおける企画展、体験イベント、里創人熊野倶楽部における商品企画など、さまざまな取組により、観光面の復興に向けて徐々に明るい兆しが見えはじめています。

このような中、さらに観光面の復興を図るため、5月には、東紀州ご当地グルメ大会を実施するとともに、6月24日に紀宝町が実施する「紀宝町復興支援イベント～元気やで！紀宝町～」を支援し、7月には、「第22回世界少年野球大会三重・奈良・和歌山大会」を開催します。

さらに、9月には、紀南地域において、物産や食を一堂に集め、地域内外の皆さまや子どもたちに楽しんでいただける復興イベントを実施するとともに、熊野古道センターにおいて、9月に企画展「紀宝町と御船祭」を開催するなど、引き続き、観光面の復興に取り組んでいきます。

このほか、秋以降の集客に向け、三大都市圏などの旅行エージェントにツアーセールスや宿泊誘致活動を行うとともに、奈良県、和歌山県と連携して建国した「吉野、高野、熊野の国」の取組におきましても観光PRを実施します。

(3) その他

海外に向けた熊野古道の情報発信として、平成22年度の英語版、平成23年度の中国語版、韓国語版のホームページに引き続き、ポルトガル語、スペイン語、フランス語版を作成します。

さらに、地域内での消費増大や地域産品の販売促進を図るため、物産展や情報誌を活用した地域産品の情報発信、通信販売事業者やコンビニエンスストアなどへの販路開拓に取り組みます。

引き続き、地域のコーディネーターである東紀州観光まちづくり公社、集客交流拠点である熊野古道センターや里創人熊野倶楽部を活用しながら、熊野古道を核とした集客交流や地域特産品の販売促進の取組を進めるとともに、熊野古道の文化的価値を地域が一体となって後世に伝える取組を支援していきます。

8 審議会等の審議状況について
(平成24年2月15日～平成24年5月31日)

1 審議会等の名称	三重県固定資産評価審議会
2 開催年月日	平成24年3月12日
3 委員	会長 川上 忠臣 委員 滝澤 多佳子 他6名
4 諮問事項	平成24年度の固定資産（土地）に係る提示平均価額について
5 調査審議結果	原案について承認を得ました。
6 備考	

1 審議会等の名称	平成24年度第1回三重県スポーツ推進審議会
2 開催年月日	平成24年5月30日
3 委員	会長 鶴原 清志 副会長 馬瀬 隆彦 委員 石川 郷子 他17名
4 諮問事項	「第7次三重県スポーツ振興計画（H23-H26）」を推進するための取組について
5 調査審議結果	スポーツ推進に係る本年度の取組、方針について審議が行われました。
6 備考	第2回審議会は、9月中旬に開催予定。